

# 事務事業事後評価シート[平成29年度事業]

## 1. 基本情報

■事業の担当課	都市整備部都市計画課		■担当係	公共交通政策室
■評価事業名称	コミュニティバス運行補助金			
■事業開始年度				
■評価事業コード	070400 - 413	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	05 誰もが快適に暮らし続けられるまちづくり		
	■基本施策	04 みんなで支える公共交通体系の構築		
	■施策	01 地域の実情に応じた公共交通体系の構築		
■事業の類型	06 負担金・補助金(任意・ソフト事業)		■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの			
■法令等の名称				
■関連計画の名称				
■事業の目的と概要	交通空白地域住民の通院や買い物など日常生活に必要な生活移動の足を確保する。コミュニティバス2路線運行に対し、運行経費から運賃収入を差し引いた分を、事業者へ補助金として交付			

## 2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成29年度事業計画	平成29年度事業量実績
01	コミュニティバス運行補助金	コミュニティバス利用者	運行路線数2(飯豊立花黒岩線、二子更木線)	○運行路線数2(飯豊立花黒岩線、二子更木線)○補助金額11,468千円(うち岩手県電源立地地域対策交付金5,024千円)(仮)

## 3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	備考
直接事業費	8,735	10,239	10,921	11,200	
人件費	158	1,638	2,403	2,213	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	8,893	11,877	13,324	13,413	

## 4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	26年度	27年度	28年度	29年度	指標の説明
01	コミュニティバスの運行路線数	2路線	2路線	2路線	2路線	23年度から中部病院設立により路線を一部統合して運行を実施
02	コミュニティバス沿線地域利用者との意見交換会	2回	1回	5回	5回	計画策定に合わせ、各地区へ意見交換に出向いたため、コミュニティバスのみ意見交換会は実施しなかった。

# 事務事業事後評価シート[平成29年度事業]

03	コミュニティバス全路線の利用者数(人)	22,380人	21,065人	19,851人	20,223人	
04	1路線当たりコスト(千円)	4,446.5	5,938.5	6,662	6,706.5	

## 5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

### ■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

### 達成状況の分析

28年度と比較し、利用者は増加している。

### 問題点・課題等

拠点間交通としてコミュニティバスは今後ますます重要になるとともに、新規路線も予定されていることから対応が必要。

### 1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

### 2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

### 3. 事業廃止の影響

- 大きな不利益やリスクが生じる
- ある程度の不利益やリスクが生じる
- 不利益やリスクは小さい

### 4. 市民生活・企業活動への影響

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持の向上に必要
- 市民生活・企業活動の維持の向上への影響は少ない

### 5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

### 6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

### 7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

### 8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

### 9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

### 10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

### 11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

### ■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

現行2路線のほか、稲瀬線(H30)、立花岩崎線(H31)が予定されており、拡充を図る必要があることからコミュニティバス運行補助金を廃止し、拠点間交通補助金に改編する。

### ■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了